

武功調査委員殿

機密五十二根第一七號

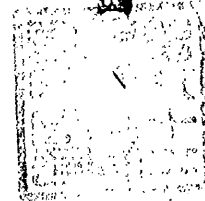


自昭和十八年五月一日
至昭和十八年五月三十一日

第五十二根據地隊戰時日誌

第五十二根據地隊司令部

七月一日



2234

(目次)

- 一 経過
- 二 人員ノ現狀
- 三 令達報告等
- 四 参考

(目次終)

2235

自昭和十八年五月 一 日
至昭和十八年五月三十一 日

第五十二根據地隊司令部戰時日誌

二 經 過

(イ) 一 般 情 勢

大平洋全般ノ情勢ハ特ニ大ナル變化ヲ見ザルモ南東方面ニ於テハ依然
劇甚ナル戰鬪續行中ニシテ又本月中旬「アツ」島ニ對シ敵機動部隊ノ
來襲スルアリ尙本邦近海ニ於ケル敵潜水艦ノ蹤梁顯著トナリ敵ノ反撃
企圖侮リ難キアルモ我ハ外戰部隊ノ神速果敢ナル戰果擴充ト相俟ツテ
各要地ニ對シ至嚴ナル防備ヲ整ヘ一層持久戰態勢ノ強化ニ邁進シツツ
アリ

(ロ) 敵軍ノ情勢

(一) 北方海面及本州東岸ニ於ケル敵潜水艦ノ出現激増スルト共ニ上旬北
海道南岸ニ對スル敵潜水艦砲撃等アリテ敵ノ「ゲリラ」戰ハ一層活潑
化スルニ至レリ

(二) 五月十二日敵機動部隊「アツ」島ニ來襲シ同島ニ對シ優勢ナル兵力
ヲ以テ上陸作戰ヲ開始セリ我守備軍ハ此敵ニ對シ頑強ナル反撃ヲ加

へ之ガ死守ニ努メタルモ二十九日全員最後ノ突撃ヲ行後同島ハ敵ノ手中ニ陥リ北方情勢頓ニ緊迫スルニ至レリ

(ハ) 任務編制配備

五月一日當隊新ニ編成セラレ大湊警備府部隊ニ編入二十四日迄横須賀方面ニ於テ開設事務ニ從事シ急速諸般ノ準備ヲ整ヘ北方情勢ノ緊迫スルニ伴ヒ同日以後大湊ニ進出作戰指導ニ任ゼリ

(ト) 主要任務

- (1) 大湊警備府擔任海面ノ防備警戒
- (2) 船團護衛
- (3) 對潛掃蕩

二編制

司令部		艦		記	
第五十二根拠地隊司令部		常	警	五月十日司令官着任同日第二十	
		第五十二掃海隊	第二十四號掃海艇	四號掃海艇ヲ旗艦ニ指定十八日	
		第四十三號驅潛艇	第二十三號掃海艇	第四十一號驅潛艇ニ變更セリ	

第四十一號驅潛艇

(二) 作戰指導

(一) 當隊編成セラルルヤ第五十二掃海隊及第四十三號驅潛艇第四十一號驅潛艇ハ何レモ船体兵器機關ノ整備ニ着手セリ

(二) 常磐内南洋方面ヨリ内地歸還ニ付之ガ護衛ノ爲第五十二掃海隊及第四十三號驅潛艇ヲ「トラク」方面ニ派遣スルコトトシ準備中ナリ

シ所ガ中旬北方情勢ノ緊迫ニ伴ヒ之ヲ取止メ十八日以後第五十二掃海隊第四十三號驅潛艇第四十一號驅潛艇ノ順序ニ横須賀發大湊方面ニ急據進出シ北海道千島列島及三陸沿岸ノ輸送船團護衛ニ従事ス

曰五月三十日白糠沖ニ敵潜水艦出沒シ第四十一號驅潛艇ヲ津輕防備部隊指揮官ノ指揮下ニ入レ飛行機及津輕防備部隊艦艇ト協力シ確實ニ之ヲ撃沈セリ

二人員ノ現狀

准士官以上

區分	職	主務	官	氏名	記事
司令官			少將	水井 靜 治	五月十日着任

隊地據根二十五第

同	同	同	同	同	同	同	司令部附	主計長	軍醫長	參謀	參謀
掌衣糧長	分隊士 庶務主任 掌經理長	掌看護長	掌暗號長	掌通信長分隊士	同	同	軍醫長附			機關主務	首席
同	主曹長	衛曹長	兵曹長	少尉	醫少尉	醫中尉	醫大尉	主大尉	醫少佐	大尉	中佐
芳賀貞夫	下山喜三郎	櫻井甲藏	青木敬利	鈴木新六	高橋杏介	土井未人	櫻井健吉	柴田善助	角田秀夫	西村國五郎	黒木照男
五月十五日同	五月六日同	五月十日同	五月九日同	五月十日同	五月七日同	五月三日同	五月十五日同	五月九日同	五月三日同	五月十五日着任	五月一日着任

(四) 下士官兵真ノ他ノ員數

區分	兵科	機關科	工作科	看護科	主計科	其ノ他	計
五十二	二〇	四			六		三〇

以上

自昭和十八年七月一日

至昭和十八年七月三十一日

第五十二根據地隊司令部戰時日誌

一 概 過

(イ) 一般竝ニ敵軍ノ情勢

一般情勢ハ前月ト概ネ同様敵ハ依然トシテ總反攻ノ氣勢ヲ示シ南東方面ニ於ケル戰鬪ハ益熾^烈ヲ極メツツアリ又北太平洋方面ハ敵ノ「アツツ」島占領以後穩密裡ニソノ戦力ヲ擴充シオルモノノ如ク哨戒機等ノ行動モ頻繁ニシテ北方情勢特ニ警戒ヲ要スル狀況ニアリ
更ニ敵潜水艦ハ日本海「オホーツク」海ニモ侵入スルニ至リ對潛掃蕩及船團護衛ハ一層嚴戒ヲ要スルニ至レリ

(ロ) 任 務 編 制

常磐及五十二砲艇隊ノ大湊到着ヲ以テ當隊ノ勢揃ヲ了シ現情勢ニ即應ノ態勢ヲ持シツツ諸訓練、整備ニ全力ヲ注ギ戦力ノ充實ニ邁進セリ

(ハ) 主 要 任 務

(1) 大湊警備府擔任海面ノ防備警戒

- (2) 船團護衛
- (3) 對潛掃蕩

口編制

司令部		艦		艇		記 事
第五十二根拠地 隊司令部		常	警	第五十二掃海隊	第二十三號掃海艇 第二十四號掃海艇	
第五十二砲艇隊	第四十一號驅潛艇	第四十三號驅潛艇	一七月二十一日旗艦ヲ常警 ニ變更セリ 二七月十日附第五十二砲艇 隊編制當隊編入サレ砲艇 未着)			

作戦指導

當面ノ船團護衛、對潛警戒掃蕩ニ全力ヲ傾注シ前月同様麾下艦艇ハ概
ネ北海道、千島及日本海方面ニ行動、所在部隊ニ協力シ任務達成ニ邁進

第五十二海隊 地 録

第五十二海隊 地 録								區 分
同	同	司令部附	主計長	軍醫長	參謀	參謀	司令官	職
同	同	軍醫長附			機 關 主 務	首 席		主 務
醫少尉	醫中尉	醫大尉	主大尉	醫少佐	大尉	中佐	少將	官
高橋 孝介	土井 末人	櫻井 健吉	柴田 善助	角田 秀夫	西村 國五郎	黒木 照男	水井 靜治	氏 名
								記 事

二人 員ノ 現 狀
 (イ) 准士官以上

セリ
 (ハ) 第五十二掃海隊ハ五日及六日陸奥海灣ニ於テ諸訓練ヲ實施ス
 (ロ) 月末麾下艦艇大湊ニ集結ス
 白千島、北海道、三陸方面敵潛出現狀況別圖ノ通

隊司令部

同	同	同	同	同	同
同	掌衣糧長	庶務主任兼整理長分隊長	掌看護長	掌暗號長	掌通信長分隊士
同	同	主曹長	行曹長	兵曹長	少尉
石川留五郎	芳賀貞夫	下山喜三郎	櫻井甲藏	青木敬利	鈴木新六
七月十日着任	七月十日退隊				

(四) 下士官兵其ノ他ノ員數

五十二根司令部	區分	兵科	機關科	主計科	其ノ他	計
一九	一	九	四	六	〇	三〇

四參

考

特記事項ナシ

自昭和十八年八月三十一日 第五十二根據地隊戰時日誌
至昭和十八年八月三十一日

一經 過

(1) 敵 情

月頭警戒擔任區域ノ敵潛、航空機ノ動勢稍閑散ナリシモ十二日北千島方面ニ敵機來襲シ敵ハ「アリーウシヤン」列島ヲ中間基地トシテ漸次北方進攻路ヲ以テスル反攻態勢ヲ示セリ中旬以降北海道西岸ニ敵潛ノ出沒頻發シ海上交通線ノ攪亂ヲ企圖セルモノノ如ク小樽附近海面ハ特ニ警戒ヲ要スル現狀ニアリ敵ハ本月下旬「キスカ」島我守備隊員ノ轉進ヲ知得シ敵ノ「アリーウシヤン」基地充實ト相俟ツテ今後ニ於ケル敵ノ反抗企圖ニ對シテハ一刻ノ猶餘ヲ許サザル狀況ニアリ

(2) 我軍ノ情況

北方情勢ノ緊迫化ニ伴ヒ特ニ千島方面ノ防備ハ緊急整備ヲ要スル現狀ニシテ海陸軍所屬輸送船ノ運航益々頻繁ノ度ヲ加ヘタルガ一方敵潛水艦出沒繁クシテ船團ノ直接護衛ハ特ニ重視スルノ要アリテ敵潛掃蕩ト

相俟ツテ麾下艦艇ハ殆ンド休養ノ邊ナク連日濃霧荒天ヲ冒シテ本任務遂行ニ邁進シツツアリ

(イ) 作戰指導

(1) 作戰命令ノ要綱

大湊警備府警備部隊トシテ擔任海面ノ防備警戒對潛掃蕩及船團護衛等ニ從事ス

(2) 哨戒待機等ノ發令變更及解除

麾下艦艇ハ概ネ大湊小樽稚内大泊ヲ待機基地トシテ對潛掃蕩及船團護衛ニ任ジ所在指揮官ニ協力又ハ作戰指揮ヲ承ケ作戰任務ニ從事ス
詳細ハ令達報告等ノ項參照

(3) 初旬陸奥海灣ニ於テ當隊綜合訓練ヲ實施セリ

(2) 爾後概ネ小樽大泊方面ヲ基地トシテ船團護衛對潛警戒ニ從事

(イ) 麾下艦船部隊ノ行動

三	二	一	〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	日	
湊								大	出動訓練	陸奥海灣	湊		大	常警
對潛掃蕩		船團護衛	稚內	船團護衛	小樽	對大湊 ↓ 對小樽		大	陸奥海灣出動訓練	大	掃二四 掃二三		第五十二掃海隊	
對潛掃蕩		樽			小	湊		大	陸奥海灣出動訓練	大	驅潛艇		第四十三號	
湊								大	陸奥海灣	大	驅潛艇		第四十一號	
湊								大	陸奥海灣	大	砲艇隊		第五十二	

2

2246

二八	二七	二六	二五	二四	二三	三二	三一	二〇	一九	一八	一七	一六	一五	一四	
大			陸奥海灣出 動積訓練	湊				大							
大	同航對潛掃蕩	稚內↓大湊 對潛掃蕩	稚內	對潛掃蕩	稚內	對潛掃蕩	稚內	對潛掃蕩	稚內	對潛掃蕩	大泊	船團護衛	大泊	船團護衛	大泊
小	對潛掃蕩	小樽↓稚內 船團護衛	小樽	船團護衛	赤岩浦↓小樽	對潛掃蕩	對潛掃蕩	赤岩浦	赤岩浦	船團護衛對潛掃蕩	稚內↓赤岩浦	稚內	對潛掃蕩	大泊	
單船團護衛	松輪島小擔陸	島	輪	小松	小松	島陸軍船	小樽松輪	小樽	小樽	掃北方對潛	神威岬沖	北方對潛	掃蕩		
湊			大	小樽	奧尻島掃蕩	茂津多岬對潛	稚內	稚內		船團護衛	宗谷海峽	津輕海峽			
湊			大				稚內				大				

JA.

同	同	司令部附	主計長	軍醫長	參謀	參謀	司令官	職
同	同	軍醫長			機	首		主務
少尉	中尉	大尉	大尉	少佐	大尉	中佐	少將	階級
高橋	土井	櫻井	柴田	角田	西村	鈴木	水井	氏名
杏介	末人	健吉	善助	秀夫	國五郎	照男	静治	記事

(1) 主要職員ノ官氏名

(一) 司令部

二人員ノ現状

三一	三〇	二九
對潛掃蕩		湊
小	小	小
航	梅	大
間	大	湊

隊	掃海		常	艦(艇)別	種別	士官	特	下士官	兵	其ノ他	計
	掃二三	掃二四									
	三	三	一	一	一	二	五	一	六	〇	六〇九
	四	四	〇	〇	〇	三	七	一	六	〇	一〇七
	三	三	四	〇	〇	三	五	一	六	〇	一一一

口麾下總員數

記事	ナ	シ	兵種	兵科	機關科	主計科	其ノ他	計
	一九	四	六	〇	三	〇		三〇

(回)下士官兵其ノ他ノ員數

同	掌衣糧長	同	少尉	鈴木新六
同	庶務主任掌經理長分隊士	主曹長	兵曹長	青木敬利
同	掌看護長	衛曹長	櫻井甲藏	
同		下山喜三郎		
同		石川留五郎		

自昭和十八年九月一日
至昭和十八年九月三十日

第五十二根據地隊戰時日誌

一 經過

(イ) 敵情

一日南鳥島ニ敵艦上機ノ來襲アリシヨリ敵機動部隊ノ北方佯動ヲ警戒スル所アリシモ爾後特異ノ情況ナカリシモ依然千島列島、北海道沿岸ニ於ケル潜水艦ニ依ル我海上交通線ノ破壊ヲ活潑ニシ且北千島方面ニ對シテハ小規模ノ空襲ヲ行ヒ神經戰的效果ヲ企圖シアリテ特ニ敵潜水艦ノ日本海侵入及交通線攪亂ノ企圖ニ對シテハ嚴重ナル警戒ヲ要スル情況ニアリ

(ロ) 我軍ノ情況

(一) 初旬當隊綜合訓練及教練作業トシテ當隊ノ任務遂行ニ必要ナル各種戰鬪訓練ヲ實施シ爾後前月ニ引續キ主トシテ津輕海峽北海道西岸及樺太東岸ニ於ケル船團護衛對潜哨戒掃蕩ニ從事セリ
○十七日驅潜四一八尻矢崎附近ノ敵潜ヲ攻撃撃沈セリ

(イ) 作戰指導

(一) 作戰命令ノ要綱

大湊警備府警備部隊トシテ擔任海面ノ防備警戒對潛掃蕩及船團護衛等ニ從事ス

(ロ) 哨戒待機等ノ發令變更及解除

麾下艦艇ハ概ネ大湊^近館室蘭小樽稚内大泊等ヲ待機及補給基地トシテ對潛掃蕩船團護衛ニ任ジ所在部隊ト協力シ作戰任務ニ從事ス(詳細令達報告ノ項參照)

(ハ) 初旬陸奥海灣ニ於テ當隊綜合訓練及教練作業實施

(2) 爾後小樽大泊及津輕海峽東口附近ニ於テ對潛掃蕩船團護衛ニ從事

(3) 中下旬掃二四驅潛四一ハ防寒施設工事及入渠整備ノ爲夫々舞鶴横須賀ニ同航整備ニ着手ス

(ニ) 麾下艦船部隊ノ行動

10.

日	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	一三
常盤	大	大	大	大	大	陸奥海灣	陸奥海灣	出動訓練	大	大	大	大	大
第五十二掃海隊	掃二四	掃二三	港外那智一類作業	大	大	陸奥海灣出動訓練	陸奥海灣出動訓練	陸奥海灣出動訓練	大	大	大	大	大
第四十三號	驅潛艇	驅潛艇	同上	大	大	陸奥海灣	陸奥海灣	出動訓練	大	大	大	大	大
第四十一號	驅潛艇	驅潛艇	同上	大	大	陸奥海灣	陸奥海灣	出動訓練	大	大	大	大	大
第五十一	砲艇隊	砲艇隊	同上	大	大	陸奥海灣	陸奥海灣	出動訓練	大	大	大	大	大

二八	二七	二六	二五	二四	二三	二二	二一	二〇	一九	一八	一七	一六	一五	一四
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

湊

大

鶴	舞	小樽 對潛掃蕩 船團護衛	小樽 對潛掃蕩 船團護衛	樽	小
---	---	--------------------	--------------------	---	---

大泊 船團護衛	大泊	對潛掃蕩 船團護衛	大泊	對潛掃蕩 船團護衛	大湊 大泊	大湊
------------	----	--------------	----	--------------	----------	----

賀	須	橫	室蘭 對潛掃蕩 船團護衛
---	---	---	--------------------

敵潛 船團護衛	室蘭	八戶 對潛掃蕩 船團護衛	八戶	八戶 對潛掃蕩 船團護衛	八戶 對潛掃蕩 船團護衛	八戶 對潛掃蕩 船團護衛	八戶 對潛掃蕩 船團護衛	八戶 對潛掃蕩 船團護衛	八戶 對潛掃蕩 船團護衛	八戶 對潛掃蕩 船團護衛	八戶 對潛掃蕩 船團護衛	八戶 對潛掃蕩 船團護衛	八戶 對潛掃蕩 船團護衛	八戶 對潛掃蕩 船團護衛
------------	----	--------------------	----	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------

湊

大

2

2253

三〇	二九
大	
對潛掃蕩	
船團護衛	
橫須賀一	
大湊	

二、人員ノ現状

(一)司令部

(1)主要職員ノ官氏名

職	主務	官	氏名	記事
司令官		少將	水井 爵 治	
參謀	首席	中佐	黒木 照 男	
參謀	機關	大尉	西村 國五郎	
軍醫長		醫少佐	角 田 秀 夫	
主計長		主大尉	柴 田 善 助	
司令部附	軍醫長附	醫大尉	櫻 井 健 吉	
同	同	醫中尉	土 井 未 人	
同	同	醫少尉	高 橋 杏 介	

自昭和十八年十月三十一日
至昭和十八年十月三十一日

第五十二根據地隊戰時日誌

一、經過

(1) 敵情

「オホーツク海」南部及日本海北部方面ニ於ケル敵潜水艦ノ出沒狀況ニハ大ナル變化ナク擔任海面ノ敵潛出沒ハ十數回ヲ數ス十一日豊間宗谷海峽潛航通峽シツツアル敵潜水艦ヲ海峽中央附近ニテ發見機ヲ逃セズ之ヲ攻撃擊沈シ引續十三日同海峽ニ於テ潜水艦音ヲシキモノヲ聽知セル等依然嚴重ナル警戒ヲ要スル狀況ニシテ下旬「オホーツク」海南西部ニ三回ニ及ビ敵潛電波ヲ測定二十九日ニハ長田丸ノ遭難アリ同方面ノ敵潛動向ハ尙嚴戒スベキ情勢ニアリ

(2) 我軍ノ情況

北海道北部西部及「オホーツク」海南西部海面ニ於ケル敵潜水艦跳發ノ現狀ニ鑑ミ麾下ノ掃海艇、驅潛艇ハ擧ゲテ同方面ノ作戰任務ニ從事十三日旗艦ヲ第四十三號驅潛艇ニ變更シ當司令部ハ宗谷方面ニ進出宗谷

2256

及小樽方面所在兵力ヲ併セ全作戰指揮ニ當レリ

ハ作戰指導

ハ作戰命令ノ要綱

(1) 大湊警備府警備部隊トシテ擔任海面ノ防備對潛掃蕩及船團護衛
等ニ從事

(2) 七日小樽附近海面ニ敵潛出現驅潛四三ハ小樽隊ト協力掃蕩ニ從事

セルモ爾後消息ヲ絶チタルヲ以テ諸情況ヲ判斷シ九日同艦ヲ宗
谷海峽方面ニ急派敵潛水艦ノ脱出ニ備フ

(3) 八日附大警備令作第一二五號ニ基キ當司令部ハ十三日以降宗谷

海峽方面ニ進出宗谷防備部隊小樽隊(津防)大湊航空隊稚内派遣

隊並ニ小樽派遣隊大警備隊稚内分遣隊ヲ併セ指揮シ奥尻海峽

以北東徑一四六度線以西海面ノ對潛警戒及海上交通保護ヲ擔當

ス

之ガ爲執リタル作戰指導方針左ノ如シ

(A) 敵潛水艦ノ宗谷海峽侵入ヲ絶對ニ阻止スルヲ目途トシ同海

峽ノ防備ニ重點ヲ置キ宗谷海峽防禦海面内ノ漁撈取締ヲ嚴ニシ密獵ノ絶對禁止及所在陸軍部隊ト協定連絡ヲ密ニシテ協同圓滑ヲ計ル外作戰指揮下ニ入レル各部隊ニ對シテハ作戰指導方針ノ急速徹底ヲ計レリ

(B) 以往ノ敵潛出沒狀況其ノ他ヨリ判斷シ哨戒緩急ノ度ヲ適當ニシ積極的ニ敵ヲ捕捉制壓スル如ク哨戒配備ヲ令ス

(C) 第三國船舶ノ宗谷防禦海面通航ニ關シテハ嚴重ナル監視臨檢ヲ實施シ之ガ取締ニ當レリ

殊ニ夜間通航ヲ嚴重取締ル如ク指導セリ

(D) 擔任海面航行ノ船團ニハ努メテ護衛艦ヲ附シ護衛ノ萬全ヲ期シ且船長指導ヲ行ヒ又各種ノ情況ニ應ジ船團運航ヲ統制シ被害ノ未然防止ニ努ム

(二) 哨戒待機等ノ發令變更及解除

(1) 初旬麾下艦艇ハ概ネ北海道以北海關哨戒任務ニ就カシメ所在指揮官ノ作戰指揮ヲ承ケシム

宗谷海峡西口方面哨戒中ノ艦潜四三八宗谷防備部隊ト協力シ海峡ヲ脱出中ノ敵潜ヲ捕捉之ヲ確實ニ擊沈セリ

(3) 八日附發令ノ大警電令作第一二五號ニ基キ十三日以降宗谷方面ニ進出前項記載兵力ノ作戰指揮ニ任ジ敵情ニ應シ兵力配備ノ轉換哨戒待機等ヲ電令セリ(詳細令達報告ノ項參照)其ノ主ナルモノ左ノ如シ

(A) 十三日敵潜ヲ宗谷海峡ニ總知シ艦潜四三ヲ率キ現場ニ急行所在兵力(大泊艦潜一五掃特一七十六日東丸稚内基地哨戒機二機)ヲ直接指揮シ攻撃掃蕩ニ從事ス

(B) 宗谷西能登呂防備衛所ノ哨戒ハ狀況判斷ニ依ル外特ニ天候不良海上風波高ク哨戒艇飛行機ニ依ル哨戒困難ナル時ハ防備衛所ノ能力全幅發揮ヲ目途トシ第一又ハ第二配備ヲ令シ警戒ヲ嚴ニセリ

(C) 擔任海陸航行ノ重要船舶ニ對シテハ直ニ護衛艇ヲ附シ運航セシメ附近海面ノ哨戒ヲモ併セ實施ス

2259

14.

二十八日大泊發長田丸永保丸船團ニ對シテハ驅落一五ヲシテ之
 直接護衛セシムルト共ニ當時ノ敵情ニ基キ之ガ護衛ニ關シ航路
 ノ指示其ノ他萬策ヲ盡シタルモ遂ニ二十九日〇一二〇頃北緯四
 五度三〇分東徑一四六度附近ニ於テ敵潛ノ雷撃一本(不發)ヲ受ケ
 クルニ至レリ爾後之ガ救援ニ關シ艦艇飛行機ヲ急派シ敵潛ノ副
 座ニ努ムルト共ニ航路其ノ他ヲ指令セリ

(D) 艦艇飛行機ノ哨戒待機要領ノ細部ニ關シテハ各隊指揮官ランノ
 執ラシム

(B) 補給及施設ニ關スル計畫並ニ指導

(1) 宗谷海峽方面ハ良好ナル港灣乏シク而カモ惡天候ニ左右セララル
 ラ以テ補給ヲ順當ニ實施センニハ港灣施設及補給設備ノ整備ト兩
 ヲ相俟ツテ始メテ其ノ能力ヲ發揮シ得ルモ現狀ニ於テハ大泊港内
 共不備ノ點甚シトセマ今又作戰指揮ニ於テハ哨戒艦艇ノ補給基地
 トシテ港内ヲ主基地ニ大泊ヲ副基地ニ指定シ既設々備ヲ全幅活用
 ニ努メ大ナル不備不便ヲ痛感シツツモ辛ジテ其ノ目的ヲ達シタリ

〔下艦船部隊ノ行動〕

日	常	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二
常	大	溪											
掃	第五十二掃海隊	舞入											
二	掃	雅内方面											
四	二	對潛掃蕩											
三	三	船團護衛											
第四十三號	艦	小	大	大	大	小	小	小	小	小	小	小	小
艦	潛	檜須賀—大溪	大溪—小樽	大溪	大溪	小樽	小樽	小樽	小樽	小樽	小樽	小樽	小樽
第四十一號	艦	對潛掃蕩	對潛掃蕩	對潛掃蕩	對潛掃蕩	對潛掃蕩	對潛掃蕩	對潛掃蕩	對潛掃蕩	對潛掃蕩	對潛掃蕩	對潛掃蕩	對潛掃蕩
第五十一	砲	檜須賀	檜須賀	檜須賀	檜須賀	檜須賀	檜須賀	檜須賀	檜須賀	檜須賀	檜須賀	檜須賀	檜須賀
二	艦	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大
隊	隊	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大

二七	二六	二五	二四	二三	二二	二一	二〇	一九	一八	一七	一六	一五	一四	一三
大										練		陸奥海灣 出動諸訓		
		小 樽		對 潛 掃 蕩										
		小 樽		對 潛 掃 蕩										
稚 内 (對潛掃蕩)		稚 内 宗谷海峽		稚 内 小樽—小樽 (船團護衛)		稚 内		大 泊 (對潛掃蕩)		大 泊		稚 内 宗谷海峽 (對潛掃蕩)		稚 内
		對 潛 掃 蕩		船 團 護 衛		小 樽		對 潛 掃 蕩						
大										練		陸奥海灣 出動諸訓		

三 一	三 〇	三 九	二 八
--------	--------	--------	--------

海陸軍
訓練

對
潛
掃
蕩

對
潛
掃
蕩

稚内—稚内
宗谷海峡
(對潛掃蕩)

對
潛
掃
蕩

稚
内

2263

自昭和十八年十一月一日
至昭和十八年十一月三十日

第五十二根拠地隊戦時日誌

2264

一、経過

(1) 敵情

(一) 前月末「オホツク」海軍西部ニ敵潜水艦二回出現シタル外擔任海面ノ敵情概ネ閑散ニシテ異狀ナシ

(二) 既往ノ狀況ヨリ推シ滿月前後ハ敵潛出現ノ算大ニシテ十二三日頃ハ特ニ警戒ヲ要スル時期ナリシモ異狀ナシ

(三) 爾後北方海面寒氣吹雪ニ加ヘ荒天ノ季節トナリ敵潛情報ヲ得ズ

(2) 我軍ノ情況

前月ニ引續キ中旬迄宗谷海峡小樽方面ノ對潛哨戒船團護衛ノ指揮ニ任ジタリ

十五日大湊警備府電令作第一三一號ニ依リ當隊司令室ノ宗谷小樽方面所在大警部隊ニ對スル作戰指揮ヲ解カレ旗艦ヲ常磐ニ變更大湊ニ復歸ス麾下艦艇(五十二掃海隊驅潛四三四一)ハ概ネ二十一

日迄宗谷海峽方面ニ殘留引續キ同方面ノ作戰任務ニ從事シ下旬大湊ニ歸投セリ

(イ) 作戰指導

(1) 作戰命令ノ要綱

左記ノ外概ネ前月通

(1) 前月ニ引續キ十五日迄宗谷海峽方面ニ在リテ全作戰ヲ指導ス
(2) 最近第三國船舶ノ宗谷海峽防禦海面航過頻繁トナレルヲ以テ特ニ嚴重ナル監視臨檢ヲ實施セリ

(3) 初旬敵情閑散ナリシヲ以テ主トシテ船團ノ護衛ニ當ラシメタリ

(4) 荒天ノ季節ニ入り小艇ノ哨戒力低下ヲ考慮シ海上風浪大ナル場合ハ哨戒艇ハ概ネ稚内ニ待機セシメ防備衛所哨戒機ニ依ル哨戒力ノ極度發揮ニ努メタリ

(ロ) 哨戒待機等ノ發令變更及解除

(1) 宗谷海峽方面ニ於ケル作戰指揮ハ本月十日迄ノ予定ナリシモ

五	四	三	二	一	日
			出動諸訓練	陸奥海灣	常 警
					第五十二掃海隊
					掃二三四
			長田丸護衛 稚内一大湊		第四十一 號驅潛艇
對潛掃蕩	稚 内	對潛掃蕩	稚 内	對潛掃蕩	第四十三 號驅潛艇
					第五十二 砲艇隊

(二) 麾下艦船部隊ノ行動

日 補給及施設ニ關スル計畫並ニ指導

前 月 ノ 通

十五日迄之ヲ延期セシメラレタリ (大警電令作第一三一號)
 (2) 十二日三日ノ滿月ニ後第一艦隊トナシ哨戒實施ノ予定ナリシ
 モ荒天ノ爲取止メ西能登呂宗谷各防備衛所ノ哨戒ヲ強化セリ
 (3) 司令部大湊歸投後當隊綜合訓練施行予定ナル處取止メラレタ
 リ

二〇	一九	一八	一七	一六	一五	一四	一三	一二	一一	一〇	九	八	七	六
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	---	---	---	---

大

湊

入 舞
 訓 渠
 令 修
 工 專
 專 理 鶴

宗谷海峡五面
 船團護衛
 對潛掃蕩

稚 内		對潛掃蕩	稚 内	淡路丸護衛	小樽 稚内	小樽	對潛掃蕩	川内灣避泊	大 湊
對潛哨戒	稚 内	對潛哨戒	稚 内	對潛哨戒	大泊 稚内	大 泊	對潛哨戒	稚内 大泊	稚 内

大
湊

2267

職 主 務 官 氏 名 記事

二人員ノ現狀
 (H)司令部
 (I)主要職員ノ官氏名

三〇	二九	二八	二七	二六	二五	二四	二三	三三	三一
大湊				出動訓練					
大湊					舞鶴 對潛掃蕩				
大湊				小樽 對潛掃蕩	小樽	稚内 對潛掃蕩			
大湊				小樽 對潛掃蕩	小樽	對潛掃蕩			
大湊				小樽 對潛掃蕩	小樽	稚内 對潛掃蕩			
大湊									

下士官兵其ノ他ノ員數

同	同	同	同	同	同	同	司令部附	主計長	軍醫長	參謀	參謀	司令官
庶務主任掌理長	軍衣糧長分隊士	掌看護長	掌暗號長	掌通信長分隊士	同 (馳潛四三乘艦)	同 (掃二四乘艦)	軍醫長附 (馳潛四一乘艦)			機關	首席 (兼大警參謀)	
主曹長 峰岸忠助	主曹長 石川留五郎	衛曹長 樓井甲藏	兵曹長 青木敏利	少尉 鈴木新六	醫少尉 高橋杏介	醫中尉 土井未人	醫大尉 櫻井健吉	主大尉 柴田善助	醫中佐 角田秀夫	大尉 西村國五郎	中佐 黒木照男	少將 水井靜治

2269

19

十											月	艦名							
六	五	四	三	二	一	〇	九	八	七	六	五		四	三	二	一	日		
大											陸奥海灣出動諸訓練		海陸軍聯合訓練		常磐				
稚内		對濠掃蕩		小樽		對濠掃蕩		大湊		同上		同上		同上		掃二二		第五十二掃海隊	
同上		同上		同上		同上		同上		同上		同上		同上		掃二四		第四十一號驅潛艇	
稚内		對濠掃蕩		小樽		對濠掃蕩		大湊		同上		同上		同上		同上		第四十三號驅潛艇	
機関整備		船体兵器		大湊															

下艦艇部隊行動

三 一	三 〇	二 九	二 八	二 七	二 六	二 五	二 四	二 三	二 二	二 一	二 〇	一 九	一 八	一 七
面才保世佐														
面才賀須横												大 湊	雅内大湊 對湊掃蕩	
同 上												同 上	同 上	
横須賀方面		面才保世佐 行護繁帝										大 湊	雅内大湊 對湊掃蕩	
宗 蘭	對 潜 暗 成	宗 蘭	對 潜 暗 成	宗 蘭	對 潜 暗 成	宗 蘭	對 潜 暗 成	宗 蘭	對 潜 暗 成	宗 蘭	對 潜 暗 成	宗 蘭	對 潜 暗 成	宗 蘭

2271

20

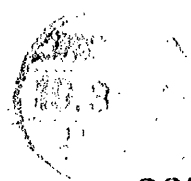
第五十二根拠地隊戦時日誌

五十二根拠地隊第一三
自昭和十九年一月一日
至昭和十九年二月十日

一三



第五十二根拠地隊司令部



2272

(目次)

- 一 経過
- 二 人員、現狀
- 三 令達報告等
- 四 参考
- 五 作戦経過概要
- 六 医務行政
- 七 会計経理

(終)

一、經過

自昭和十九年一月一日
至昭和十九年一月二十日
第五十二根據地隊戰時日誌

(一) 敵情

擔任海面 特記スベキ情報ナシ

(二) 我々軍情況

(1) 前月ニ引續キ常磐五十二掃海隊四十一號驅逐艇ハ夫々特別任務ニ從事中

(2) 四十三號驅逐艇ハ十日迄空室方面ニ在リテ津防指揮官ノ作戰指揮ヲ承ケ對津哨戒船団護衛ニ從事

(3) 四十三號 四十一號驅逐艇ハ十五日附十一特根所屬トナリ常磐五十二掃海隊ハ二十日附夫々十八戰隊 大湊警備隊

ニ編入セラル

(4) 五十二號艦隊大湊ニ在リテ諸訓練ニ從事二十日附大湊警備
 府部隊ニ編入

(5) 第五十二根據地隊二十日附解隊トシ

三 作戰指導

特記事項アリ

四 麾下艦船部隊ノ行動

麾下艦船ハ特別任務ノ為他部隊ノ作戰指揮ヲ承ク

ニ人員ノ現狀

一 司令部

二 主要職員官代名

職	主	務	官	氏	名	記・事
司令官			少將	木井	靜治	
參謀首席	(前大湊海軍司令部參謀主任)		中佐	黒木	照男	